

◎今週の御言葉 「野の花、空の鳥(2)」(ルカの福音書12章22節～34節) 「小さな群れよ。恐れることはない。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです」(12:32)。 仲森文穩

○命や体を保つためには食物や衣類が必要です。しかし食物様や衣服様が私たちを養う訳ではありません。イエス様は弟子たちに「あなた方の命や体を養い給うのは神様です。何を食べようか何を着ようかと気をもみ、心や体を損なうのはやめなさい。ただ、神の国を求めなさい」と話されました。I ペテロ1:4に示されている「天に蓄えられている朽ちず、汚れず、しぼまない財産」を目当てとし、神様に自分を委ね、御心にかなう道を選び取って生活しよう、と教えておられます。

○中島美香さんの「僕が死のうと思ったのは」という歌があります。作詩作曲は秋田ひろむさんで、若い人の気持ちを歌っているようです。例えば、「僕が死のうと思ったのは、靴ひもがほどけたから」。その理由は「結び直すのは苦手なんだよ。人とのつながりもまた然り」と続きます。死ぬことばかり考える僕ですが、徐々に希望の光がさして、「この世に少し期待するよ」という言葉で終わります。人を生かすのは希望の光です。

○希望と言えば、「パンドラの箱」の話があります。人間が傲慢になったことにゼウスが怒り、パンドラに箱を持たせ地上に送ります。パンドラがふたを開けると、あらゆる不幸や悲しみが飛び出して箱の底に希望だけがとり残されたとか、あるいは箱の底から希望が「出してください」と願ったので、不幸の多い世界に希望がやどったとか、言われます。ロシアもイスラエルも、そしてアメリカも傍若無人で非人道的なふるまいをこれ以上続けて、何らかのしっぺ返しを受けることがないよう、祈るばかりです。

○でも、そんな血なまぐさいこの世から、聖書の世界に目を転じると、一筋の希望の光を見る思いがします。イエス様のまなざしは、いつの時代も小さいもの、弱いものに向けられています。弱さを恥じることがありますが、神様は「あなたが弱い時、私の強さがあなたの中で十二分に働くのだ」と仰います。それがキリスト者の強さです。野の花、空の鳥を養う神様の恵みに目をとめ、「気をもむのはやめなさい」との御言葉を心に留めましょう。神様がいつも心と体を養ってくださることを感謝し、平安の中を歩む私たちでありたいと思います。